



食育について

学校における食育については、食育基本法において、「食育とは生きる上での基本であって、知育・徳育・体育の基礎となるものであり、さまざまな経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育てるもの」と定義されています。

食育を実践するねらいとして、一般的には次の5つのポイントが上げられています。

1. 食への感謝の気持ちを育む
2. 栄養のバランスを学ぶ
3. 食を通して社会性を育む
4. 食の安全について学ぶ
5. 伝統的な食文化を継承する

学校では、家庭科や保健、道徳や学級活動、生活科や総合的な学習の時間などにおいて、随時食育に取り組んでいますが、最も実践的で継続的な指導の場は給食です。

現在は新型コロナウイルス感染症対策のために様々な制約の中ではありますが、毎日の給食時間は、上記5つのポイントを学ぶための教材にあふれています。しかし、学習としての重要性だけでなく、おなかをすかせて一生懸命に食べている子供たちの姿を見ていると、愛おしく、暖かい気持ちになります。そんな給食時間が、私は大好きです。

日頃から子供たちには、自分のためになることに一生懸命取り組んでほしいと願っていますが、「食べる」とは、まさにそういうことだと感じています。だからこそ、無理にとは言わないものの、できるだけしっかりと食べてほしいという思いを持っています。

そんな思いから、私は学級担任時代から子供たちに給食について、以下のように話していました。

「食べる」ときに考えてほしいこと

生きる糧・健康

食べなければやせる？とんでもない。食べなければ生きていけないのです。
生きるために食べるのです。

作ってくれる人への感謝

一生懸命作ってくださった方がいます。残食が多いと悲しい気持ちになるでしょう。
家庭でも同様です。

食べられる命への敬意

生き物の命は皆大切なものです。ただし、食べる時だけは命をいただかなければなりません。動物も植物も、食べ物は全て生きていたものです。
いただいた命を、安易に「ゴミ」にはしてはいけません。

郡山小学校では、給食は自校調理です。給食室の栄養士をはじめとした職員が、毎日子供たちのために心を込めて作っています。栄養バランスもよく、どこの学校にも負けないおいしさです。さらに、地産地消の一環として、地元農家の沼田 敏さん（学校評議員・元 PTA 会長）から多くの食材を提供していただいております。沼田さんの御指導をいただいて子供たちが自分たちで育てる経験をしていることもあって、子供たちも地元食材への愛着を持っています。地域にも支えられている素晴らしい給食です。今日も子供たちと一緒に、ありがたく「いただきます！！」

..... 切り取り線

学校への御意見・御要望・校長に知らせたいこと など

2021年6月18日（ ）年（ ）組 児童氏名